

## がんセンターNEWS

Aichi Cancer Center News

第70号

令和元年10月発行

発行

愛知県がんセンター

Tel. 052-762-6111(代)

## 遺伝性のがんを知る ～写真パネル展、公開セミナー開催～

9月25日（水）から10月2日（水）まで、当院1階のアトリウムで「遺伝性がん当事者からの手紙」写真パネル展を開催しました。遺伝性乳癌卵巣癌症候群（HBOC）の当事者が家族らに宛てた手紙を紹介する写真パネルとともに、HBOCの説明パネルや、東海地域で活動する認定遺伝カウンセラーの紹介パネルも展示しました。

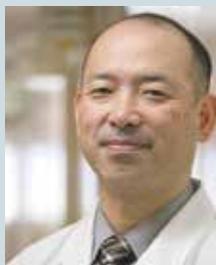
HBOCは、BRCA1/2遺伝子の生まれつきの変化が原因で乳がんや卵巣がん、膵がん、前立腺がんなどが発症しやすくなる遺伝性腫瘍症候群のひとつです。遺伝子の変化の有無を調べて確定診断されれば、がんの予防や早期発見のための対策が取れますが、一方で自分自身や家族への影響を心配し心理的不安を抱えることもあります。綴られた手紙や写真を通じて、患者さんや家族の思いを共有する機会になりました。

この催しに関連して9月29日（日）には、「家族で学ぶ遺伝セミナー@愛知 遺伝性のがんを知ろう」を開催しました。午前は、「親子で学ぶ遺伝の仕組み～ぼくのゲノム、わたしのみらい～」をテーマに、34名の子どもたちが自分の唾液からDNAを取り出す実験にとり組み、その後はゲノム情報の大切さについて語り合いました。午後には、医療者からの遺伝性のがんに関する講演とともに、パネルを作成した患者会の代表である太宰牧子さんに講演をいただきました。



パネル展と公開セミナーのようす

## 研究所副所長就任のあいさつ



研究所副所長  
井本 逸勢

癌ゲノム医療元年ともいわれる令和元年の10月1日に、研究所副所長を拝命致しました。研究所分子遺伝学分野の井本逸勢です。研究所の分子遺伝学分野の分野長、病院のリスク評価センターならびにがんゲノム医療センターのセンター長との兼任ですが、愛知県がんセンター全体の研究と診療の両方に貢献できるように一層努力いたします。

特に、研究所におきましては、これまで行ってきた自分分野での研究のみならず、関戸副所長とともに高橋総長を補佐し、研究所全体の活性化と発展につながるような仕組み作りや取り組みを行うことで、当センターからがんの予防、早期発見、治療に役立つより多くの研究成果が発信されていくように努めてまいります。

今後とも、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

## 遺伝子病理診断部長就任のあいさつ



遺伝子病理診断部長  
細田 和貴

2019年9月1日付けで遺伝子病理診断部長を拝命しました細田和貴と申します。2001年に信州大学医学部を卒業し、2006年に愛知県がんセンターに移り今日まで遺伝子病理診断部で勤務して参りました。また2015年から約3年間、ジョンズホプキンス大学で次世代シーケンサーを用いた膵がんの進展に関する研究を行いました。この度部長職を拝命し、歴史ある遺伝子病理診断部を引き継ぐ機会を与えて頂きましたことを、大変光栄に思っております。

遺伝子病理診断部は病理・細胞診、分子・腫瘍遺伝子検査、病理解剖の3つの大きな働きを担っております。豊富な症例と多数の遺伝子検査の経験をもとに、専門性の高い病理診断と正確な治療関連の分子異常を速やかに患者さんに提供できるよう尽力致します。また、がん遺伝子パネル検査の実施、臨床治験の支援、研究所との連携による研究の促進、若手医師の研修等も果たすべき重要な役割です。各診療科、研究所と関係を構築しながら、愛知県がんセンターの医療を一層発展させていきたいと思っております。御指導、御支援の程宜しくお願い申し上げます。

## 腫瘍免疫応答研究分野長就任のあいさつ



腫瘍免疫応答研究分野長  
籠谷 勇紀

令和元年10月に、東京大学医学部附属病院より愛知県がんセンター研究所・腫瘍免疫応答研究分野の分野長に着任致しました。がんに対する治療法として従来の手術、化学療法、放射線治療に加えて、体内の免疫細胞を使ってがん細胞を攻撃させる免疫療法が確立されつつあります。しかし実際に効果を示すがんの種類はまだ限られており、より多くの患者さんが恩恵を受けられるよう、さらに改良する必要があります。私たちの研究室では治療に使う免疫細胞、特にがん細胞を直接攻撃できる能力を持つT細胞という免疫細胞を人工的に改変して、より有効性・安全性を高めるための研究開発を進めています。

基礎研究の成果を実際の新しい治療法へ応用するにはいくつものハードルがあり、どうしても時間がかかりますが、1日でも早く実現するべく病院・研究所と一体となって取り組みたいと思いますので、皆様からの温かい御支援を賜りますよう、どうぞよろしく宜しくお願い申し上げます。

## 「愛知県がん診療連携協議会」を開催しました

愛知県内のがん診療連携拠点病院等で構成の「愛知県がん診療連携協議会」を、令和元年 8 月 5 日（月）に当院において開催しました。

会議では、「第12回都道府県がん診療連携連絡協議会」の結果報告と、「看護部会」、「院内がん登録部会」、「緩和ケア部会」、「相談支援部会」、「PDCA サイクル推進検討部会」、「地域連携クリニカルパス部会」の 6 つの部会の平成30年度の活動結果及び令和元年度の活動計画の報告を行ったうえで、問題解決のための話し合いや情報交換等を行いました。

また、愛知県保健医療局健康医務部健康対策課を交えた、がん教育についての活発な意見交換もあり、大変有意義な会となりました。



## ～高校生50名が1日看護を体験しました～

「看護師という職業に興味がある」「将来看護師になりたい」と思っている高校生50名が看護体験に来てくれました。私たちと同じユニホームに着替えて、看護師と1日行動を共にし、仕事の実験を経験しました。また患者さんが入院生活でどのような経験をされているかを知るために、自分自身がストレッチャーに乗って移動したり、お互いに血圧を測ったりしました。

体験からのアンケートでは「ナースステーションは普段みられないところで、今まで知らなかった看護師の様子を知ることができた」「看護師になろうと思う私にとって実際に働いている姿をみることはとても刺激的で、もっと



看護師になりたいと強く思いました」とご意見をいただきました。

看護師という職業は高校生にとってとても大変な仕事かもしれませんが、それだけではなく、とてもやりがいがある、魅力的なお仕事であることを伝える事ができて良かったと思います。

将来、1日体験にきてくれた高校生の方と一緒に看護ができることを楽しみにしています。ありがとうございました。

看護体験研修の様子



看護部 山崎祥子

## 2019年度「高校生向け基礎実験体験講座」開催

研究所では、毎年夏に「高校生向け基礎実験体験講座」を開催しています。これは夏休みの高校生に実験を通して、医学研究やがん研究の重要性を理解してもらうイベントです。今年はノーベル賞受賞で注目されたがん免疫をテーマとして8月7日に開催し、14名の高校生が参加しました。「調べてみよう免疫の力～ノーベル賞を体験しよう！～」と題して、がん細胞が出す目印を感知したキラーT細胞が作るインターフェロンガンマという物質を測定しました。がん細胞がキラーT細胞によって排除された状態を観察することで、ノーベル賞に触れ、治療に利用されている免疫の力を実感してもらいました。

研究者から直接実験を教わり、1日共に過ごす貴重な時間を提供できました。体験講座後のアンケートでは「実験の楽しさを味わえてよかったです」や「とても興味深い実験ができて面白かったです」など好評だったことが伺えました。来年度以降も高校生を対象としてイベントを開催していく予定です。



ご参加いただいた高校生の皆さんと



基礎実験体験講座の様子

患者さん、登録医、がんセンターをつなぐホットな1頁

# とろく医探訪 No.13

Produced by  
地域医療連携・相談支援センター

## 今井内科胃腸科クリニック 院長：今井 英人 先生



日頃は愛知県がんセンターの医師及びスタッフの皆さまには大変お世話になり、この場をお借りして厚く御礼を申し上げます。

私は名古屋市立大学を卒業後、名市大の旧第一内科（現消化器・代謝内科学）で消化器内科を学んだ後、平成13年から当クリニックを引き継いでおります。

現在は消化器疾患、生活習慣病などの診療を中心に地域のかかりつけ医としてできることを模索しながら、日々診療を行っております。

クリニックでは、外来診療の傍ら胃カメラ、大腸カメラ、腹部超音波などの検査を行っておりますので、必然的にがんあるいはがん疑いの患者様を診察させていただくことが多くなります。

がんとなると患者様及びその家族の方々は大変不安な日々を過ごされますので、主治医としては一刻も早く治療を完了させてあげたいと思うわけですが、そのような時にがんセンターは、検査・治療をととも迅速に行ってくださいますので大変心強く感じております。

今後とも引き続き診療連携の程、宜しくお願ひ致します。

診療時間	月	火	水	木	金	土	日祝
9:00~12:00	○	○	○	○	○	○	/
17:00~19:30	○	○	○	○	○	/	/

休診日：土曜午後・日曜・祝日

### 【医療機関情報】

## 今井内科胃腸科クリニック

診療科目／内科、胃腸科、小児科、心療内科

電話／052-771-3322

所在地／〒465-0097 愛知県名古屋市名東区平和ヶ丘5-27



編集後記：第13回は名東区、「今井内科胃腸科クリニック」です。昭和55年開院とHPにあるように、先代の時代より地域に根差し、かかりつけ医として内視鏡検査や糖尿病・高血圧などの生活習慣病の指導・改善などに力を入れておられるクリニックです。建物も新しくなり、入りやすい、広い駐車場が目印です。今後ともよろしくお願ひいたします<Y.SANO>

# 分子標的薬と個別化治療

## 研究所 がん標的治療トランスレーショナルリサーチ分野

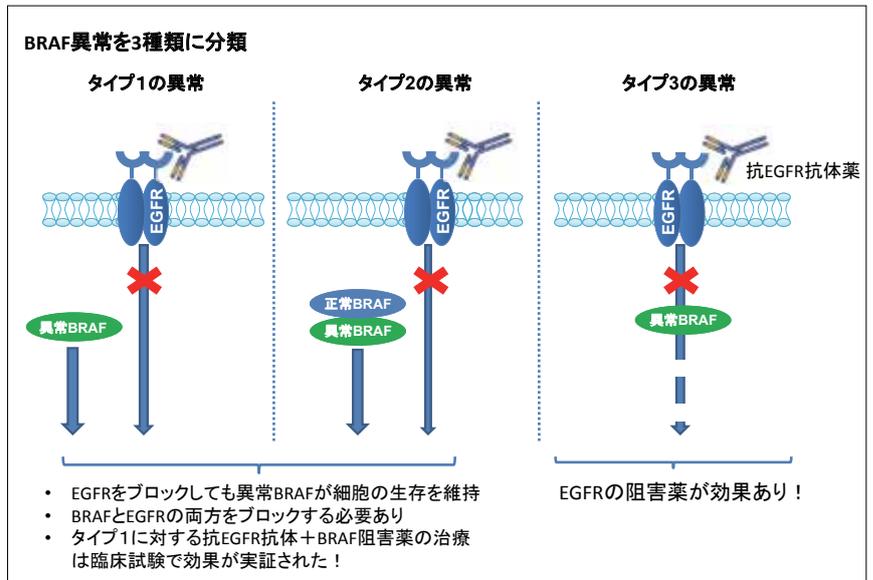


がん標的治療TR分野長  
衣斐 寛倫

がん標的治療トランスレーショナルリサーチ分野では、分子標的治療薬の効果を高める研究を行っています。本年6月、多くの遺伝子について異常の有無を一度に調べる遺伝子パネル検査が保険適用となり、これまであまり見つかってこなかった遺伝子の異常が見つかるようになってきました。

当分野はBRAFと呼ばれる遺伝子の異常に着目しました。BRAFの遺伝子異常は異常の種類により3タイプに分類できます。大腸がんでは抗EGFR抗体と呼ばれる細胞表面のタンパクを阻害する薬が使用されていますが、タイプ1の異常を持つ患者さんには抗EGFR抗体が効きません。我々は、抗EGFR抗体とBRAFの阻害薬を一緒に使うと良いことを以前に報告し、実際に患者さんの予後が改善することが本年の欧州臨床腫瘍学会で報告されました。一方で、遺伝子パネル検査により、頻

度の低いタイプ2、タイプ3の異常も見つかるようになっていますが、これらの異常を持つ患者さんに抗EGFR抗体が効果を示すかについては不明でした。我々は、国際共同研究の結果、タイプ3の異常を持つ大腸がんでは抗EGFR抗体が有効であることを明らかにしました。これらの検討により、BRAF遺伝子に異常を持つ患者さんに対し、異常の種類に応じた治療法を提案できるようになる可能性があります。



## 研究所 腫瘍免疫制御トランスレーショナルリサーチ分野

## スタッフの紹介

腫瘍免疫制御TR分野では、最新のシーケンサー技術を活用して、患者一人ひとりから、がん特異的な遺伝子変異に起因するがん抗原を同定し、そのがん抗原に対するT細胞のがん排除機能を増強するがんワクチン療法の開発を目指しています。本研究を、がん治療経験が豊富な病院のがん専門医と、コンピューターサイエンス及びがんの基礎研究をリードする研究所の研究者とともに共同で進めます。



写真：前列左から、高橋祐介（主任研究員）、松下博和（分野長）、岡村文子（主任研究員）  
後列左から、宮井まなみ（技師）、西田玲奈（技師）、Kumuluzi Mulati（リサーチレジデント）、藤原泰子（秘書）

## 中高生のがん教育に読書感想文コンクール！

病院 精神腫瘍科部



精神腫瘍科部長  
小森 康永

本院緩和ケアセンターでは、若者が読書により、がんサバイバーについて学ぶと同時に、がんについて自主的に学ぶきっかけとなることを目指し、「中高生夏休み読書感想文コンクール」を開催しました。課題図書は、ブライアン・フィースの『母のがん』。かのこ文庫の協力を得て、二十冊が貸出されました。『母のがん』の読後感を日本語で、以下の内容を盛り込んでまとめてもらいました。

①一番印象に残ったページはどこか（一つ）、②そこで作者は何を考えているのか、③なぜあなたはそこに興味をもったのか、④そこで何を発見したのか。返却はしません。全国の中高校で本格稼働した、がん教育を専門家集団であるがんセンターが独自に取り組んだ結果はいかに？

審査は9月中に行われ、10月には本院HPにて入賞作が発表されていますので、是非ご一読下さい。尚、この取り組みは、医療とマンガの統合を目指す「グラフィック・メディシン協会」でも大きく取り上げられました。

(<https://graphicmedicine.jp/2019/07/30/call-for-essays/>)

ホームページアドレス：[https://www.pref.aichi.jp/cancer-center/hosp/02shinryo/kakuka/pccmenu\\_contest2019.html](https://www.pref.aichi.jp/cancer-center/hosp/02shinryo/kakuka/pccmenu_contest2019.html)

## 内視鏡部 スタッフの紹介

私たち内視鏡部は、食道・胃・大腸といった消化管にできるがんを診断から治療までトータルに担当する消化管内科です。消化管のがんの多くは早期に発見すれば治るがんです。また、胃がんではピロリ菌の除菌、大腸がんではポリープの切除など予防が可能ながんでもあります。内視鏡部では、がんの診断・治療のみならず、予防にも力を入れています。4月からは日帰り可能な大腸ポリープに対するコールドポリペクトミーを始めました。



写真：左から、大西祥代（医長）、平山 裕（医長）、田近正洋（部長）、田中 努（医長）

## 再建外科手術におけるICG蛍光造影法の利用

病院 形成外科部



形成外科部長

兵藤 伊久夫

がん切除後の形態や機能の回復・維持のために再建手術が行われます。例えば、舌癌手術では、舌の大部分を切除することがあります。切除したままでは食事や会話などの機能が大きく損なわれたままになるため、欠損部を修復する必要があります。この欠損部に腹部や大腿部などから皮膚や皮下組織、筋肉などを移植することを再建手術といいます。移植した組織が生着するためには良好な血流を有していることが必要です。（「血流のある皮膚・皮下組織、筋肉、骨など」を移植する手術方法を皮弁と言います）

移植する皮弁が良好な血流を有しているかどうかを調べる方法の一つにICG（インドシアニングリーン）蛍光造影法があります。ICGを静脈注射し特殊なフィルターを用いて皮弁を観察すると血流の流れている部分とそうでない部分を観察することができます。ICG蛍光造影法を手術中に行い、血液の流れている部分だけを移植することで良好な創癒合が得られます。

当院では、皮弁の血流を観察するなどのほかに、顕微鏡下に血管吻合した血管やリンパ管が開存しているかどうかを確認するためにICG蛍光造影法を行っています。ICG蛍光造影法を用いることで手術の安全性向上をはかっています。



図1 上段 ICG蛍光造影法を行ったところ。  
皮弁先端の血流が不良で染色されていない。（赤線より先）  
下段 皮弁先端の血流不良部位を切除したのち移植することとした。



図2 左 顕微鏡下に動脈吻合したところ。  
右 ICG蛍光造影法で動脈の血流を確認したところ。  
良好な血管の開存が得られている。

## 呼吸器内科部

## スタッフの紹介

呼吸器内科部は、胸部に発生する腫瘍の診断と治療（抗がん剤治療、分子標的薬治療、免疫治療）を担当しています。肺がんの治療法は飛躍的に進歩し、免疫治療では開発が日進月歩で進み治療法が大きく変化してきています。一方、分子標的治療は、肺がんのがん遺伝子変化の検出を一度に行う事の出来るゲノム医療が臨床に導入されました。呼吸器内科部では、最短期間で最適な治療法を決定し、最高の医療の提供を心がけています。



写真：前列左から、大矢医長、樋田呼吸器内科部長  
後列左から、山口医長、古田医師、渡辺医長、堀尾外来部長、清水医長

「名医が解説 これが"病のサイン"だ!」に出演

当センターの丹羽病院長が、2019年6月20日、東海テレビの番組「スイッチ」に生出演いたしました。

がんの中でも罹患者数が多い胃がんの予防、早期発見、治療を解説し、特に胃がんは「早期発見すれば助けられる病気」、「サイン」がないからこそ40歳を超えたら検診を受けることが大事、「効果的な予防法として、『ピロリ菌』の除菌がある」ことを視聴者に伝えました。



新任医師の紹介



頭頸部外科部  
澤部 倫

当院の頭頸部外科部レジデント、がんセンター研究所、名古屋市立大学病院、一宮市立市民病院の勤務を行いました後、当院に勤務することとなりました。他科の先生方との協力のもと、患者様に最善の治療を提供していきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

医療連携室のご案内

対応時間	月曜日～金曜日 午前9時00分～午後7時00分 土曜日 午前9時00分～午後1時00分 (祝日、年末年始を除く)
電話	052-764-9892 (直通)
FAX	052-764-9897 (24時間稼働しております。)
ホームページ	<a href="http://www.pref.aichi.jp/cancer-center/hosp/">http://www.pref.aichi.jp/cancer-center/hosp/</a> 中央病院トップページ右手にある「医療連携」のバナーをクリックしてください。利用の手引や様式など、詳細を掲載しております。

外来診療案内

受付時間	午前8時30分～午前11時30分 (自動再来受付機による受付は午前8時からできます。)
休診日	土・日・祝日、年末年始
診療科	消化器内科、呼吸器内科、循環器科、血液・細胞療法科、薬物療法科、頭頸部外科、形成外科、呼吸器外科、乳腺科、消化器外科、整形外科(サルコーマ外来)、脳神経外科、泌尿器科、婦人科、皮膚科、眼科、放射線診断・IVR科、放射線治療科、精神腫瘍科、緩和ケア科(リンパ浮腫外来・ペインクリニック)、リスク評価センター
外来診療担当医一覧	毎月1回、月初めに更新しています。詳しくはホームページをご覧ください。
休診情報	お電話またはホームページでご確認ください。

※再診予約制：診察券をお持ちの方は、診察予約をしてください。052-764-2911(直通) 午前9時～午後5時(土・日・祝・年末年始を除く)  
 ※セカンドオピニオン外来は、全科で対応しています。(完全予約制・自由診療)  
 ※精神腫瘍科、リスク評価センターは、予約のみの対応です。

交通のご案内

★公共交通機関のご案内

地下鉄利用 名城線「自由ヶ丘駅」2番出口から徒歩7分  
 市バス利用 基幹2系統・星丘11系統「千種台中学校」下車徒歩3分

★車でのアクセスのご案内

- ◎一般道路  
 本山交差点から北へ約7分、平和公園の北西
- ◎高速道路  
 東名高速道路「名古屋IC」から西へ約15分  
 名古屋高速「四谷出口」から北へ約10分

※詳しくはホームページをご参照ください。



愛知県がんセンター Tel.(052)762-6111 Fax.(052)764-2963  
 〒464-8681 名古屋市千種区鹿子殿1番1号 ホームページ <https://www.pref.aichi.jp/cancer-center/>

愛知県がんセンター

